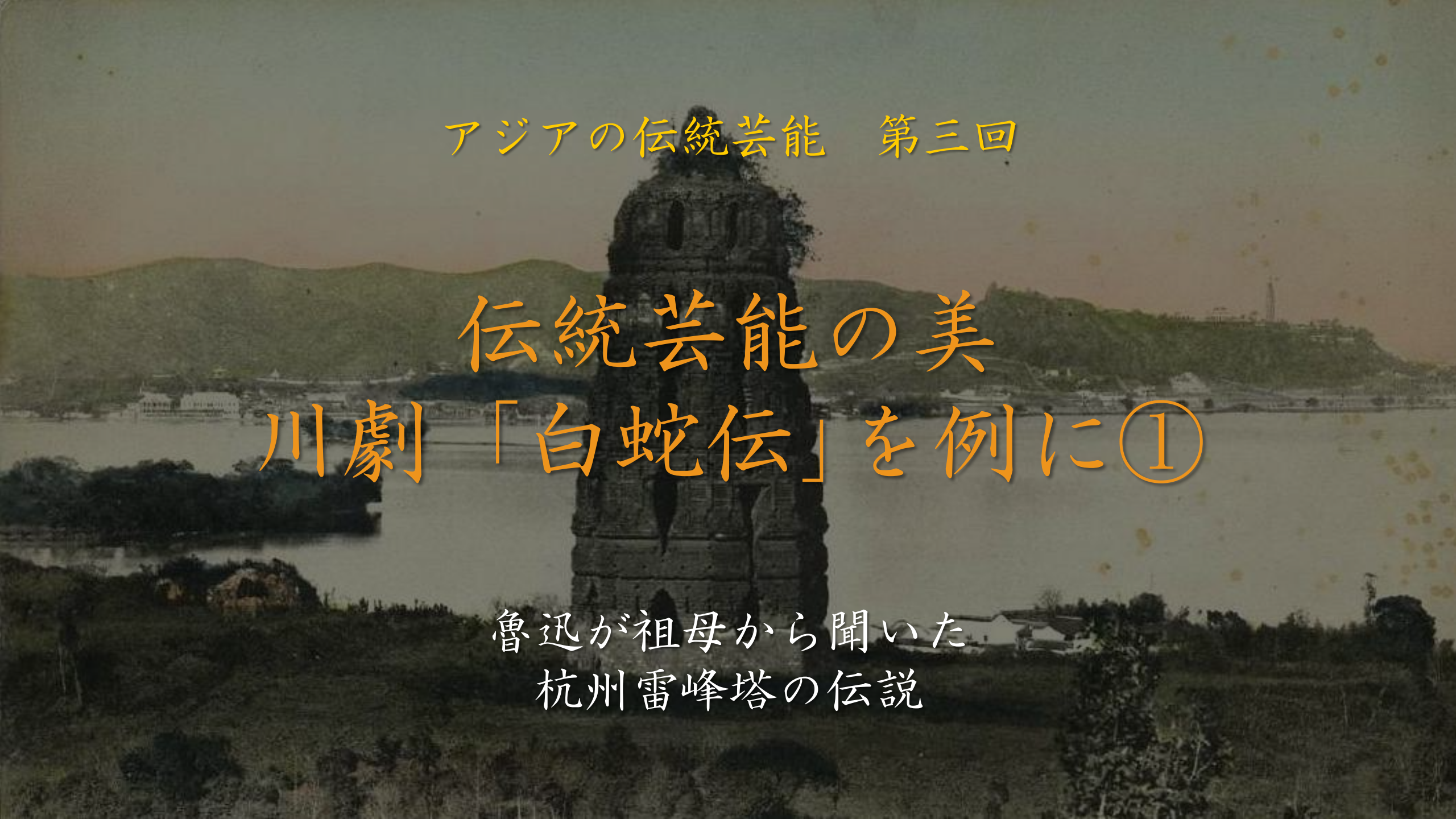


アジアの伝統芸能　第三回

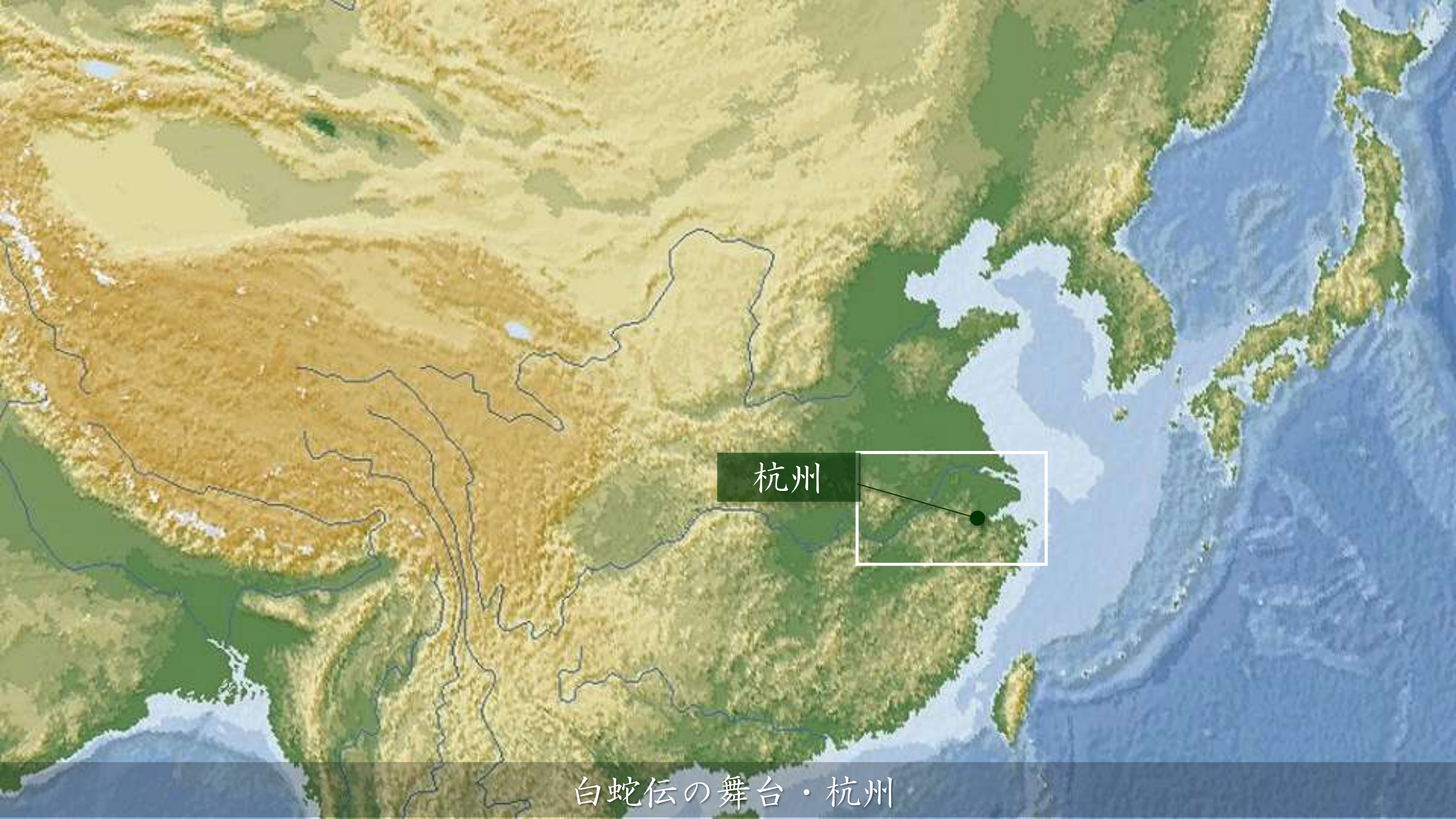
# 伝統芸能の美
# 川劇「白蛇伝」を例に①

魯迅が祖母から聞いた
杭州雷峰塔の伝説

# 中国の四大民間故事と伝統芸能

中国に「四大民間故事」と呼ばれる民話がある。「牛郎織女」、「孟姜女」、「白蛇伝」、「梁山伯と祝英台」の四つである。

各論編では、はじめにこの四大民間故事の中から、杭州などを舞台に、蛇の妖精と人間の若者の恋を描いた「白蛇伝」を取り上げ、この話が民間でどのように語り伝えられてきたか、中国の伝統演劇の中でどのように表現されてきたかを見ていきたい。




白蛇伝の舞台・杭州

白蛇伝の舞台・杭州

# 白蛇伝―雷峰塔の伝説

〔解説〕

湖の都・杭州。この町の西に広がる西湖のほとりに、雷峰塔と呼ばれる仏塔が建っていた。

北宋の初め(九七五年)に建立されたこの塔は、元朝の末(十四世紀)に木造部を焼失したため、その後数百年にわたって不気味な磚製の塔芯部だけをさらしていた。

やがて明代になると、この塔の下には人間の若者に恋をした白蛇の精が鎮められているという伝説が誕生した。

雷峰塔

魯迅（Lǔ Xùn 1881-1936）

# 魯迅「雷峰塔の倒壊について」

〔解説〕

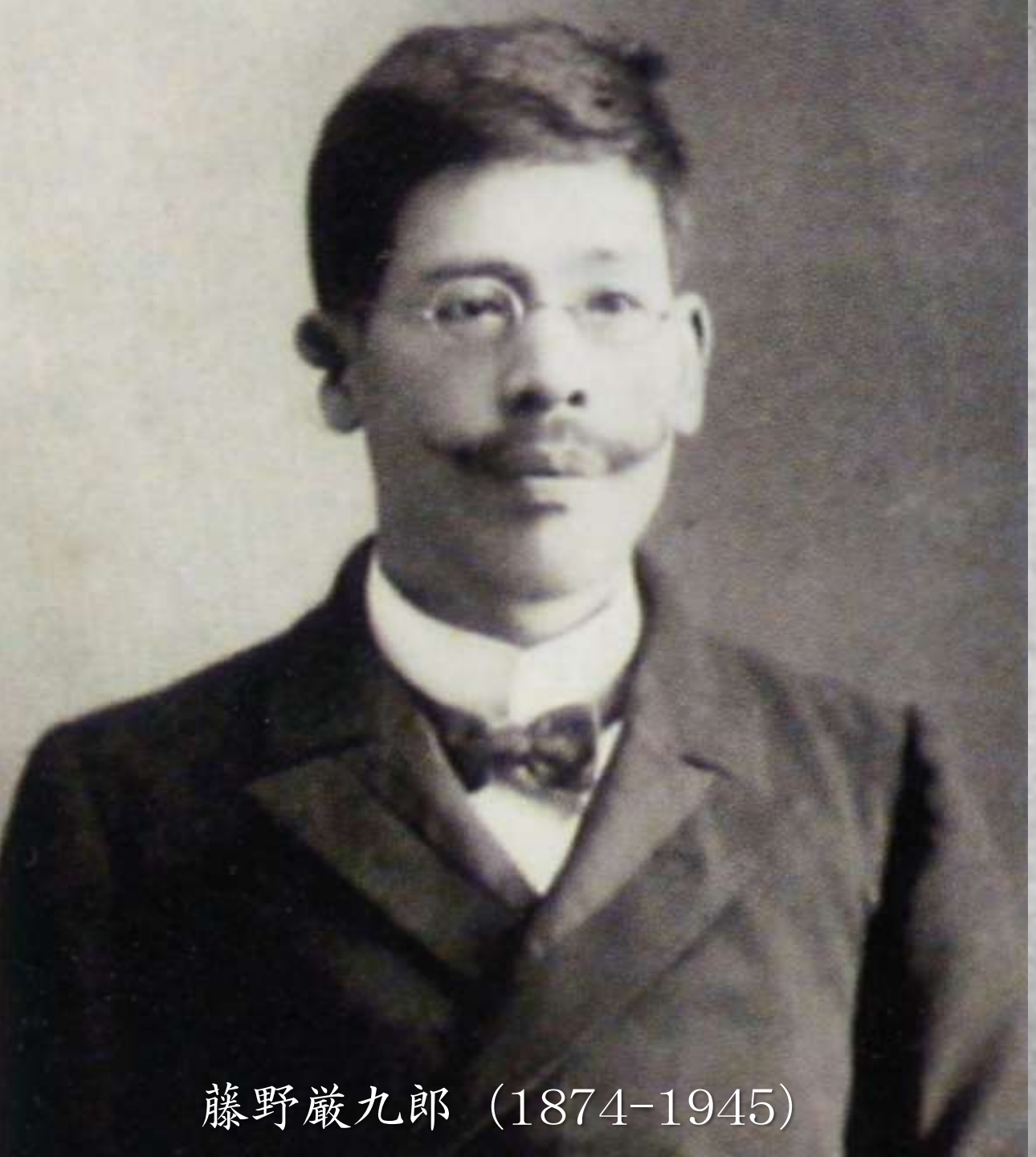
元朝の末（十四世紀）に起こった火災により、磚製の塔芯部だけを残していた雷峰塔は、一九二四年九月二五日に倒壊した。

その知らせを聞いた魯迅は、少年時代に祖母から聞いたという雷峰塔の伝説をもとに、「雷峰塔の倒壊について」という一文を雑誌『語絲』に寄稿した。

以下、この一文を通して、「白蛇伝」が民間でどのように語り伝えられていたかを見てみよう。

白蛇伝の舞台・杭州と魯迅の故郷・紹興

紹興



藤野厳九郎（1874-1945）

魯迅（1881-1936）

雷峰塔

# 魯迅が聞いた雷峰塔の伝説

杭州の西湖のほとりにある雷峰塔が倒壊したという。人から聞いただけで、実際に見たわけではない。

もっとも倒れる前の雷峰塔なら見たことがある。山と湖の間に見え隠れするボロボロの塔を、沈む夕陽が照らす。これが「雷峰夕照」で、西湖十景の一つだ。

魯迅「雷峰塔の倒壊について」
語絲周刊第一期一九二四年十一月十七日

VIDEO

杭州と西湖十景（NHK世界遺産―杭州西湖の文化的景観より）

雷峰塔

# 魯迅が聞いた雷峰塔の伝説

「雷峰夕照」の実際の風景も見たことがあるが、べつに大したものではなかった。

しかし、西湖の名勝の中で私が最初に知ったのはこの雷峰塔だ。祖母がよくこの塔の下には白蛇が閉じ込められていると話していたからだ。

魯迅「雷峰塔の倒壊について」
語絲周刊第一期一九二四年十一月十七日

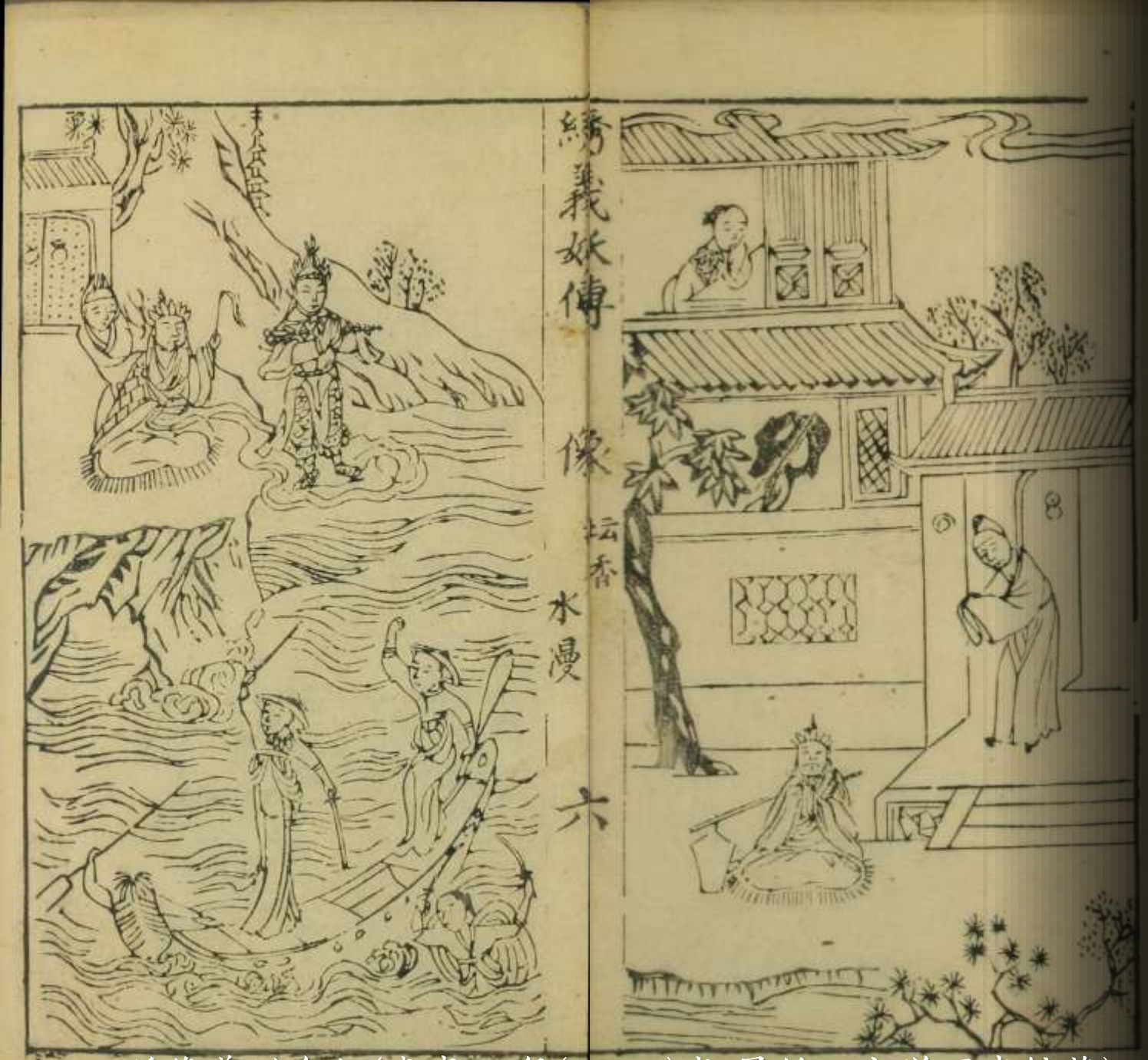
# 魯迅が聞いた雷峰塔の伝説

許仙という人が青と白の二匹の蛇を助けた。すると白蛇が恩返しのために、女の子に姿を変えて嫁いできた。青蛇も侍女に姿を変えてついてきた。

法海禅師という偉いお坊さんがいて、許仙の顔に妖気が出ているのを見て――非凡な力を持った人にしかわからないのだが、妖怪を妻にすると顔に妖気が出るそうだ――彼を金山寺の法座の後ろに隠した。白蛇は夫を探しにいき、「金山の水攻め」をした。

魯迅「雷峰塔の倒壊について」
語絲周刊第一期一九二四年十一月十七日

京劇「白蛇伝」



繡像義妖全伝(嘉慶14年(1809)序 早稲田大学図書館蔵)

# 魯迅が聞いた雷峰塔の伝説

祖母が話すともっとずっと面白い。出どころはたぶん『義妖伝』という弾詞なのだろうが、私はそれを読んだことがないので、「許仙」にしても「法海」にしてもこう書くのかどうかよくわからない。

魯迅「雷峰塔の倒壊について」
語絲周刊第一期一九二四年十一月十七日

雷峰塔

## 魯迅が聞いた雷峰塔の伝説

とにかく白蛇は法海の計略にかかって小さな鉢の中に封じ込められてしまった。鉢は地面の中に埋められ、その上に魔物を封じるための塔が建てられた。それが雷峰塔だ。

魯迅「雷峰塔の倒壊について」
語絲周刊第一期一九二四年十一月十七日

雷峰塔

# 魯迅が聞いた雷峰塔の伝説

この後、「白状元、塔を祭る」などいろいろな話があったようだが、いまではすっかり忘れてしまった。

雷峰塔など倒れてしまえばいいのに。当時の私はそればかり願っていた。それがいま現実になったのだ。世の人々の喜びはいかばかりだろう。

魯迅「雷峰塔の倒壊について」
語絲周刊第一期一九二四年十一月十七日

雷峰塔

# 魯迅が聞いた雷峰塔の伝説

これは根も葉もないことではない。試しに呉越地方の田舎にいって民意を探ってみるがいい。老若男女を問わず、ちょっと頭のおかしなやつ以外は、誰だって白蛇に同情し、法海のお節介に腹を立てているはずだ。

魯迅「雷峰塔の倒壊について」
語絲周刊第一期一九二四年十一月十七日

雷峰塔

# 魯迅が聞いた雷峰塔の伝説

だいたい坊主というものは、お経だけ読んでいればいい。白蛇が許仙に夢中になろうと、許仙が妖怪を妻にしようと、他人には関係のないことだ。それなのに彼はお経を放り出して、横車を押した。たぶんやきもちを焼いたのだろう――そうに決まってる。

魯迅「雷峰塔の倒壊について」
語絲周刊第一期一九二四年十一月十七日

雷峰塔

# 魯迅が聞いた雷峰塔の伝説

その後、玉皇大帝も法海のお節介のおかげで衆生が苦しめられているのに腹を立て、彼を捕らえて罰することにした。すると、彼はあちこち逃げ回り、とうとう蟹の甲羅に隠れて二度と出て来られなくなってしまった。いまもそのままだという。

魯迅「雷峰塔の倒壊について」
語絲周刊第一期一九二四年十一月十七日

# 魯迅が聞いた雷峰塔の伝説

残念なのは当時、話の出どころを聞かなかったことだ。あるいは『義妖伝』ではなく、民間の伝説だったかも知れない。

私は玉皇大帝のやったことにはいろいろ不満も多いのだが、この件についてはとても満足している。「金山の水攻め」の一件は確かに法海が悪い。玉皇大帝の裁きは正しいのだ。

魯迅「雷峰塔の倒壊について」
語絲周刊第一期一九二四年十一月十七日

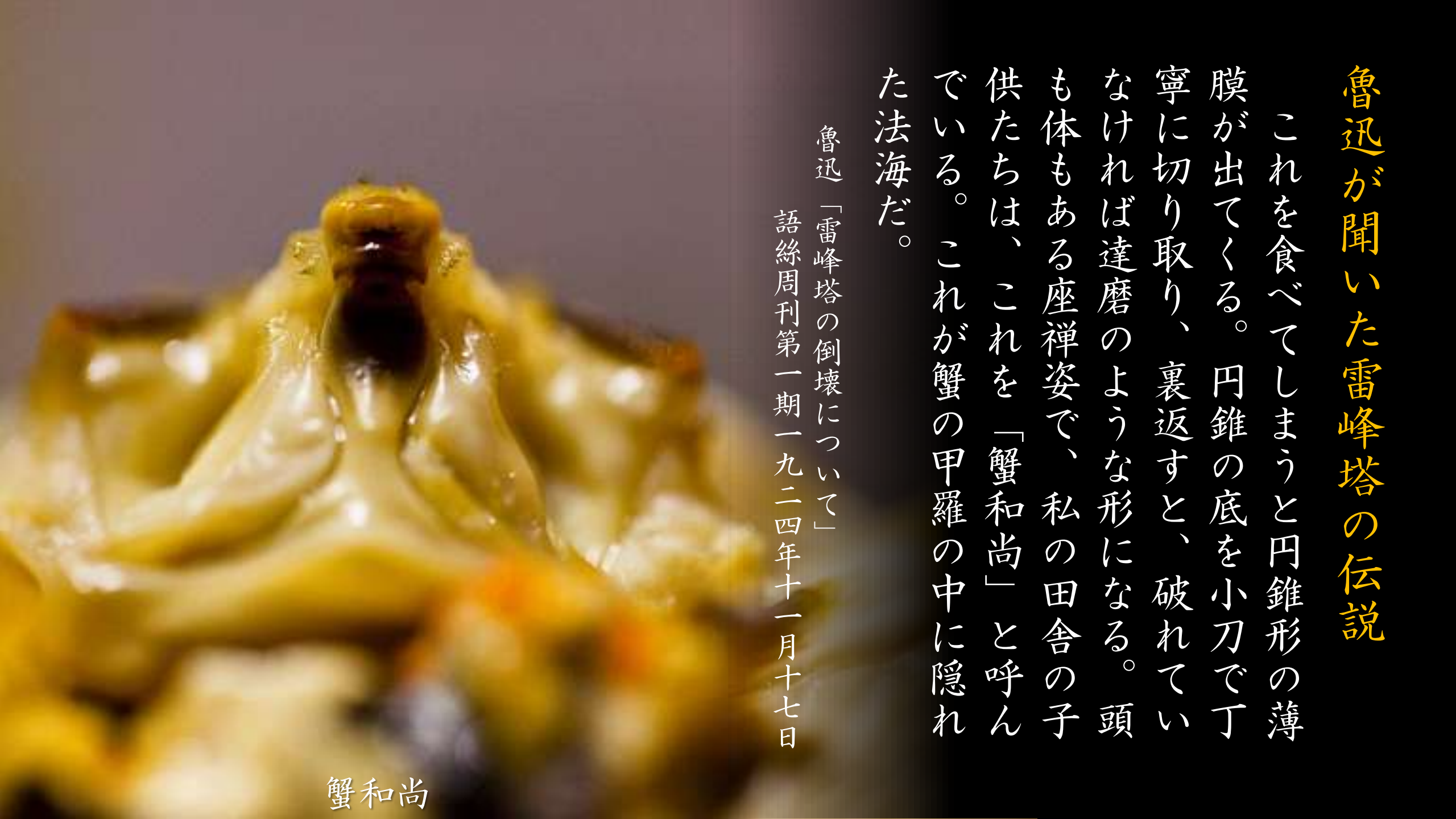
雷峰塔

大閘蟹（上海蟹）

## 魯迅が聞いた雷峰塔の伝説

秋が深まり稲が実るころ、呉越地方ではたくさんの蟹が捕れる。ゆであがって真っ赤になったら、どれでもいい、背中の甲羅を剥がしてみるといい。なかは蟹味噌、メスなら石榴のような真っ赤な卵がある。

魯迅「雷峰塔の倒壊について」
語絲周刊第一期一九二四年十一月十七日




# 魯迅が聞いた雷峰塔の伝説

これを食べてしまうと円錐形の薄膜が出てくる。円錐の底を小刀で丁寧に切り取り、裏返すと、破れていなければ達磨のような形になる。頭も体もある座禅姿で、私の田舎の子供たちは、これを「蟹和尚」と呼んでいる。これが蟹の甲羅の中に隠れた法海だ。

魯迅「雷峰塔の倒壊について」
語絲周刊第一期一九二四年十一月十七日

雷峰塔

# 魯迅が聞いた雷峰塔の伝説

むかし白蛇娘娘は塔の下に鎮められ、法海禅師は蟹の甲羅の中に隠れた。そしていま、この坊さんだけが座禅を組んだまま蟹が絶滅する日まで出て来られないのだ。彼は塔を建てたとき、塔はいずれ倒れるものだということに気づかなかったのだろうか。

いい気味だ。

魯迅「雷峰塔の倒壊について」
語絲周刊第一期一九二四年十一月十七日

# 川劇「白蛇伝」

〔解説〕

魯迅が祖母から聞いたという雷峰塔の伝説は「白蛇伝」と呼ばれ、「梁山伯と祝英台」、「牛郎織女」、「孟姜女」とともに中国四大民間故事の一つに数えられている。

この講義では、四川省の地方劇である川劇を例に、中国の伝統演劇がこの「白蛇伝」をどのように表現しているのか。そこで使われているさまざまな技巧を見ていきたい。

# 川劇とは？

〔解説〕

中国各地には、方言と音楽の違いにより、地方色豊かな三三五種*もの伝統演劇が行われている。

なかでもとくに豊かな音楽と技巧で知られるのが、四川省の地方劇である川劇である。

*張成濂編『中国戯曲劇種大辞典』（上海辞書出版社、一九九五年）

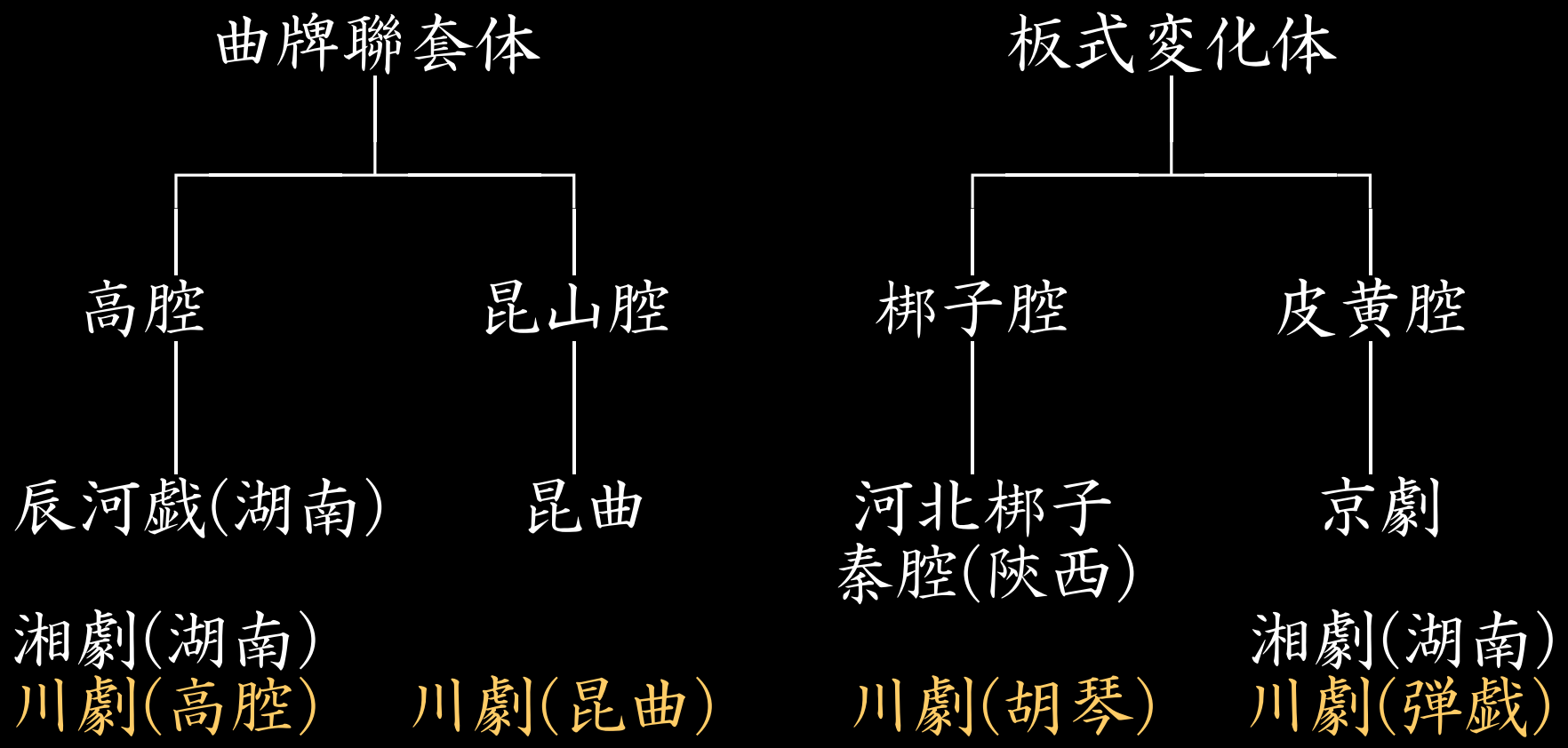
# Q

これはどの国の演劇か？
何語で演じられているのか？

VIDEO

沖縄組踊「執心鐘入」

# 中国伝統演劇の四大声腔と川劇




中国伝統演劇の主要な声腔(音楽形式)には、高腔、昆山腔、梆子腔、皮黄腔があるが、川劇にはそのすべてが取り入れられている。

# 川劇「白蛇伝」第一場 仏殿謫貶

四川に聳え立つ峨眉山。ここでは如来とその弟子たちが厳しい修行を積んでいた。

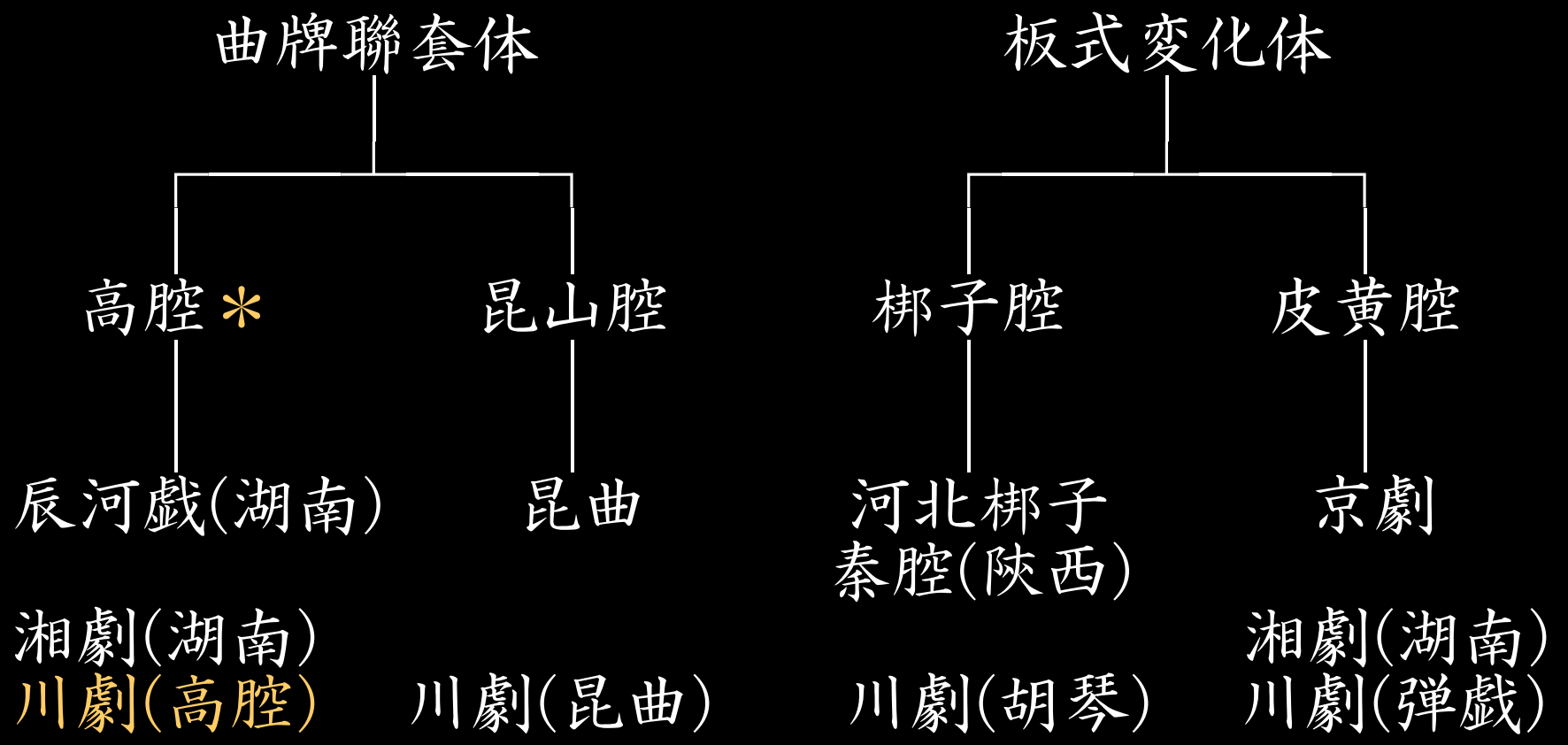
そこへ蛤蟆の精が急を告げにやってくる。白蓮池に繋がれていた白蛇が鎖を断ち切って逃げ出したのだ。如来は白蛇をかばおうとした桂枝羅漢を人間界に追放し、法海に白蛇の退治を命じる。

# 川劇のふるさと四川省

川劇のふるさと四川省

世界遺産に登録された中国三大霊山の一・峨眉山

# 中国伝統演劇の四大声腔と川劇




＊ 高腔は明代の弋陽腔（よくようこう）の流れを汲む。舞台の情景や人物の心情を説明するため、能の地謡に似た幇腔(バックコーラス)を伴うところに特徴がある。

## 能の地謡

日本の能にも地謡というバックコーラスがある。

舞台右手の地謡座に二列に並んで、登場人物の心情や場面の展開を謡で斉唱し、シテなどの役者の演技を助ける。

能「船弁慶」（同志社大学創造経済研究センター制作）

## 中国伝統演劇の幇腔

川劇や越劇などの中国伝統演劇にも、能の地謡と同じく、登場人物の心情や場面の情景などを謡う幇腔というバックコーラスが加わり、役者の演技を助ける。

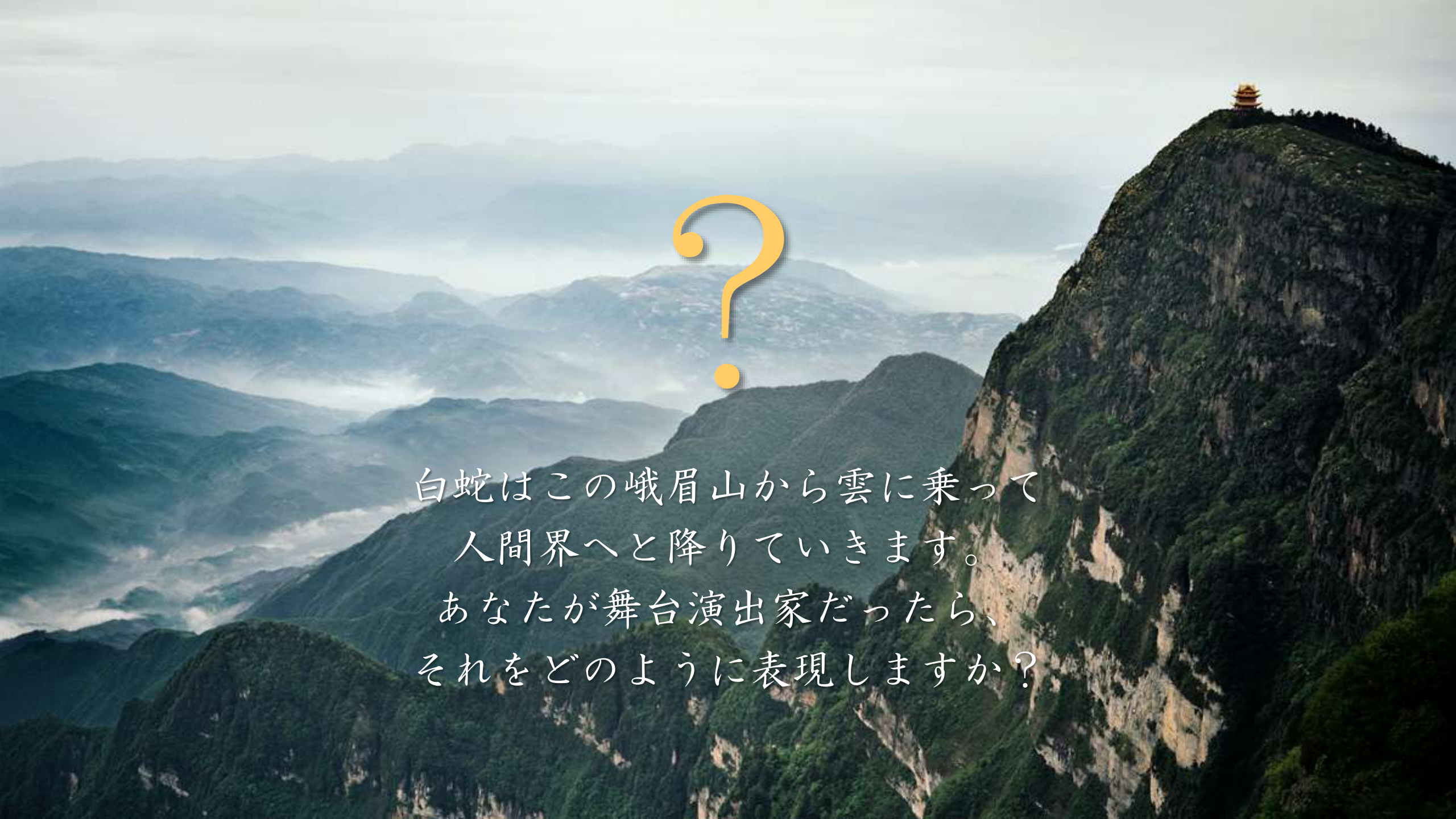
VIDEO

川劇「白蛇伝」第一場 仏殿謫貶（5:02）

## 川劇「白蛇伝」第二場 収青下凡(上)

白蛇は天界から追放された桂枝羅漢を追い、雲に乗って人間界へと向かう。眼下には美しい春景色が広がっている。

そこに突然、一匹の青蛇の精が現れる。青蛇は白蛇に妻になるよう迫るが、白蛇がそれを断ると、天空上で戦いが始まる。



白蛇はこの峨眉山から雲に乗って
人間界へと降りていきます。
あなたが舞台演出家だったら、
それをどのように表現しますか？

モーツアルト作曲・オペラ「魔笛」第二幕

モーツアルト作曲・オペラ「魔笛」第二幕

（バーナー指揮、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団）

# 中国伝統演劇の技法(一)雲牌

「雲牌」は雲を象徴する楯。

中国の伝統演劇では「有声必歌、無動不舞」（声あれば必ず歌い、舞わざる動きなし）といわれるように、役者の歌と舞（身体表現）ですべてを表現する。

このため雲に乗って空を飛ぶ場面では、役者の身体表現を妨げぬよう、歌や舞にあわせて移動し、形を変えることができる雲牌が使用される。

VIDEO

川劇「白蛇伝」　第二場　収青下凡（上）（05:52）

〔質問〕

役者さんが頭につけている鳥の羽のようなものはなんですか？何のためにつけているのですか？

# 中国伝統演劇の技法(一) 翎子功

中国の伝統演劇に登場する若い武将や女性の武将、神仙や妖怪などは、冠に翎子(れいし)と呼ばれる雉の尾の羽飾りを付けている。

これを使った翎子功と呼ばれるさまざまな技巧によって、役者は戦いの場での勇猛さや、舞の優美さを表現する。

# 中国伝統演劇の技法（二）翎子功

中国や韓国の古代の武官は、鶡（かつ＝やまどり）という雉科の鳥の尾羽を冠の上につけていた。

鶡（やまどり）

韓国景福宮の守門将

# 中国伝統演劇の技法(二)翎子功

左の写真は韓国李朝時代の宮殿・景福宮の門を守る守門将。武官の冠である鶡冠(かっかん)をかぶっている。

中国の伝統演劇に使われる翎子(れいし)は、これを舞台用にデフォルメしたもの。

川劇「白蛇伝」第二場 収青下凡(下)

白蛇を妻に迎えようと、戦いを挑んだ青蛇。両者は「雲牌」によって表現された雲に乗り、天空上で戦いを繰り広げる。

第二場後半では、白蛇と青蛇が冠につけた長い翎子を巧に操りながら、立ち回りに力強さ、舞に優雅さを加えている。

VIDEO

川劇「白蛇伝」　第二場　収青下凡（下）（06:58）

## まとめ

今回の授業では、はじめに魯迅が祖母から聞いたという杭州の雷峰塔にまつわる伝説を紹介し、続いて四川省の地方劇である川劇「白蛇伝」の第一幕から第二幕までを鑑賞した。

中国伝統演劇は「有声必歌、無動不舞」（声あれば必ず歌い、舞わざる動きなし）といわれ、日本の能と同じく、役者の歌と舞＝身体表現ですべてが表現される。

このため、身体表現に不必要な舞台装置は極力排除され、かわりに役者を助けて登場人物の心情や場面の展開を謡う幇腔や、歌や舞にあわせて自在に形を変え、移動することができる雲牌などの表現技法が使われる。